

●シリーズ●わがまちの文化財へ35

町指定重要文化財 鐘樓門

昭和62年2月21日指定

御塔山光源坊は、もともとは真言宗の寺院として延徳2（一四九〇）年に吉舎町に開かれました。所在地には天文4（一五三五）年（宝暦の奉加帳によると天正2（一五七四）年）に浄土真宗に転宗、その頃に現在地に移ったものと思われまふ。

屋根は入母屋造の総瓦葺、総檜造で2本の親柱（門扉あり）と4本の控え柱により支えられています。二階部分は高欄つきの回縁、壁部分には花頭窓がしつらえてあります。屋根は二手先と呼ばれる二段の杵組と支輪により支えられています。もともとは二階部分にその名の通り釣鐘がありましたが、戦時中に供出されたため現在には残っていません。

建物は装飾性が高く繊細な造りの禅宗様で、現在のものは天保3（一八三二）年に建築されたことが柱の一部に刻まれています。



●シリーズ●わがまちの文化財へ36

町指定天然記念物 男鹿山角礫岩・玄武岩露頭

平成3年4月25日指定

約一千万年前に火山噴火によってできたときれる男鹿山（標高六三三・八m）は、世羅台地を代表する玄武岩しょう鐘のひとつです。玄武岩鐘とは、噴火した玄武岩の溶岩が釣鐘状つりがねじょうに固まった山のことで、この露頭は、基盤の①花崗岩を突き破って堆積した②角礫岩をさらに③玄武岩が突き破って凝固堆積した層序関係（①→③の順序）を明確に示している場所で、特に噴火時に花崗岩の破碎された状態や、花崗岩にかぶさった角礫岩の様子などが観察できます。建物でいうと三階建て構造のようになっていてこの露頭は、火山形成過程を知る上で貴重で、学術的価値を持つと専門家にも認められています。

また、この周辺部一帯はスギ、ケヤキ、シデ、カヤ、マダケなどの混生する雑木林で、山頂には県天然記念物のスズランがあり植生の面からも興味深い場所です。



男鹿山遠景



露頭